

仕訳トレーニング 10 題

テキスト練習問題 1-2 の類題 / 講師：岡崎友彦

次の取引の仕訳を書きなさい。テキスト 14 ページの一覧表（どの要素が増えたら借方か貸方か）を見ながら構いません。

使う勘定科目：現金／備品／貸付金／借入金／資本金／売上／受取手数料／仕入／給料／支払家賃／支払利息

問 1 現金 800,000 円を元手として出資を受け、株式会社を設立した。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 2 銀行から現金 500,000 円を借り入れた。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 3 事務所で使うパソコン 150,000 円を購入し、代金は現金で支払った。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 4 商品を販売し、代金 250,000 円を現金で受け取った。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 5 販売用の商品 120,000 円を仕入れ、代金は現金で支払った。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 6 従業員の給料 180,000 円を現金で支払った。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 7 取引先の紹介を行い、手数料 20,000 円を現金で受け取った。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 8 事務所の今月分の家賃 60,000 円を現金で支払った。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 9 取引先に現金 100,000 円を貸し付けた。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

問 10 借入金のうち 50,000 円を、利息 2,000 円とともに現金で返済した。

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

※問 10 だけは借方が 2 行になります。

解答・解説

問 1 現金 800,000 円を元手として出資を受け、株式会社を設立した。

現 金	800,000	資本金	800,000
-----	---------	-----	---------

解説：現金（資産）の増加は借方。株主からの出資は資本金（資本）の増加なので貸方。

問 2 銀行から現金 500,000 円を借り入れた。

現 金	500,000	借入金	500,000
-----	---------	-----	---------

解説：現金（資産）の増加は借方。あとで返す義務＝借入金（負債）の増加は貸方。

問 3 事務所で使うパソコン 150,000 円を購入し、代金は現金で支払った。

備 品	150,000	現 金	150,000
-----	---------	-----	---------

解説：パソコンは備品（資産）。資産の増加は借方、現金（資産）の減少は貸方。資産どうしの置き換え。

問 4 商品を販売し、代金 250,000 円を現金で受け取った。

現 金	250,000	売 上	250,000
-----	---------	-----	---------

解説：現金（資産）の増加は借方。売上（収益）の発生は貸方。収益は右、が定位置。

問 5 販売用の商品 120,000 円を仕入れ、代金は現金で支払った。

仕 入	120,000	現 金	120,000
-----	---------	-----	---------

解説：売るための商品の購入は仕入（費用）。費用の発生は借方、現金の減少は貸方。

問 6 従業員の給料 180,000 円を現金で支払った。

給 料	180,000	現 金	180,000
-----	---------	-----	---------

解説：給料（費用）の発生は借方、現金（資産）の減少は貸方。

問 7 取引先の紹介を行い、手数料 20,000 円を現金で受け取った。

現 金	20,000	受取手数料	20,000
-----	--------	-------	--------

解説：現金の増加は借方。頭に『受取』が付く科目は収益。収益の発生は貸方。

問 8 事務所の今月分の家賃 60,000 円を現金で支払った。

支払家賃	60,000	現 金	60,000
------	--------	-----	--------

解説：頭に『支払』が付く科目は費用。支払家賃（費用）の発生は借方、現金の減少は貸方。

問 9 取引先に現金 100,000 円を貸し付けた。

貸付金	100,000	現 金	100,000
-----	---------	-----	---------

解説：あとで返してもらう権利＝貸付金（資産・債権）の増加は借方。現金の減少は貸方。

問 10 借入金のうち 50,000 円を、利息 2,000 円とともに現金で返済した。

借入金	50,000	現 金	52,000
支払利息	2,000		

解説：借入金（負債）の減少は借方（定位置の逆）。支払利息（費用）の発生も借方。現金 52,000 円の減少が貸方。借方合計と貸方合計は 52,000 円で一致。

チェックポイント：10 題とも、借方合計＝貸方合計になっているか必ず確かめること。資産の増加・費用の発生は借方（左）、負債・資本の増加・収益の発生は貸方（右）。減るときはそれぞれ逆側。